



馬淵学区まちづくり協議会の紹介 各自治会に「水害想定浸水深表示板」を設置

馬淵学区では、昭和28年9月、台風13号の影響で日野川が浄土寺町地先で決壊し、死者6人、床上浸水276戸、被災者総数2,076人（当時の馬淵村人口の76%）という大災害を経験しました。しかしながら、その後は大きな水害もなく、危機意識が薄れているのが現状です。

当協議会では、過去の水害を忘れることなく伝え、水害がいつ起こっても身の安全を守る行動がとれるよう、啓発していくことが重要だと考えています。

今回、県が作成した「日野川の浸水想定区域図」と市が作成した「近江八幡市水害ハザードマップ」を基に「水害想定浸水深表示板」を作成し、学区内75か所の電柱に関西電力の許可を得て設置しました。

各自治会や自主防災会、学区民の皆さんが、これら

の表示板などで「身近にある危険」を認知し、いざという時の防災・減災対策を考えることや、水害への危機意識を常に持っていただけるよう、これからも安心・安全のための活動推進に努めていきたいと思えます。



作成した表示板



電柱に設置した表示板

問 馬淵学区まちづくり協議会 TEL・FAX (37)7017
まちづくり協働課 TEL (36)5552・FAX (36)5553

1月は北里学区まちづくり協議会です。